

鉄砲洲神社詩吟 素読論語解説

(平成 26 年 7 月 4 日)

【九】子曰く、命を為るに、裨諲 之を草創し、世叔 之を討論し、行人子羽 之を修飾し、東里の子産 之を潤色す。

文章の作り方についての話です。孔子が言うには、鄭という国の外交文章は大変優れている、それは何故かという話です。今回の北朝鮮と日本とのやり取り、その問答、外交記録みたいな文章や、または韓国に出した河野談話などを比較しながら考えると良いと思います。

孔子が言うには、鄭国の外交文章は素晴らしい。これは裨人が文案を色々と練って原稿を書き、世叔はどういう内容が良いか、よくよく検討を重ねた。外交官である子羽が、文章を直した。東里の子産が、それに文学的な色合いを加えたので、非常に滑らかな良い文章で尚且つ主張すべきことを、きちんと主張している素晴らしい外交文章ができた。

河野談話の文章と比較をすれば、日本政府の考えた文章を韓国政府が色々と注文をつけて最終的には日本・韓国両政府で、すり合わせた文章を作りました。どちらも文学的素養のない人物が作りあげた。したがって日本の外交文章は、草創、討論、修飾、潤色という順番通りに作成しておれば、河野談話もちゃんとしたものが出来たのではなかろうかと読めばよいでしょう。自分自身が関係する組織の中で、何か外部に対して注文をつけるような文章を作るときには、この順番で作成したほうが良いとお考えください。

小保方さんが論文を書くときに、この四つの段階を経ながら文章を書いているならば、素晴らしいものが出来たのに、何故その順番通りに文章を作成しなかったのかと読めばよいでしょうね。

自分で文章を書くときには、自分の目で判断するだけではなくて、少なくとも三人位それぞれ素晴らしい人物の目を通して書けば、まあまあなもの出来るのではないかと思います。最低限、誰か他人の目を通すのが良かろうと読むとよいでしょう。

【十】或ひと子産を問う。子曰く、恵人なりと。子西を問う。曰く、彼をや彼をやと。管仲を問う。曰く、人や、伯氏の駢邑三百を奪う。疏食を飯い、齒を没するまで怨言無しと。

孔子が人物評論したようなものです。

子産という人物を孔子に質問したら、恵み深い人物で民からみても素晴らしい人物であると答えた。子西については「あの人か、あの人か」といって何も言わなかった。何も言わなかったというのは、これは孔子の腹の中に一物があったからです。子西は素晴らしい人物で名宰相といわれていたけれども、その国が孔子を登用しようとしたときに、邪魔をした。なおかつ内乱のあった時に殺されてしまったので、彼は語るまでのない人物ということで、お終いにしています。管仲については、孔子は褒めたり、けなしたりの繰り返しですが、この場合は管仲を褒めています。管仲は、斉の国の桓公を助けた素晴らしい人物です。ここの「伯氏駢邑」は、伯氏という人物の領地を奪って管仲に与えました。伯氏は、管仲は素晴らしい人物だと思っていたので、自分の土地を奪われ粗末な食事で貧乏のまま亡くなるまで管仲を怨むようなことはなかったといわれています。

今の時代で考えるときに、子産、子西、管仲、誰が一番よいか。現代でこういう人物がいるかどうか。

子産は恵み深いけれども、今の時代で恵み深い人とは、何だろうと思ったら、減税を進める人だと思います。減税を進める人、今の時代にはいません。どんどん増税していますから、子産はいない。

子西は、孔子が世の中に出るときに、足を引張って世に出さないようにさせているということだから、今の時代で、誰かを推薦して彼は素晴らしいから任に就けようとする人はいるであろうかっていうと、これもなかなかいない。この間の都議会で、女性議員の足を引張っていました。とんでもない野次を飛ばしていた。国会の中でも同じことがあったということが出ていましたから、ここにいる子西に似たような人はいるけれども、残る人はいない。

管仲についても、孔子が言うには、素晴らしい才能を発揮したけれども徳がなかなか至らないと評しています。人徳がまだ至らないが、しかし才能は素晴らしい。

そうすると安倍さんで見たときには、どうか。後世の人が評価すると思うのですが、日本の国が、戦争をできる国にという動きを一生懸命しています。

北朝鮮が攻めてくるとか、中国、韓国が攻めてくるといふ事態になったときに、防戦はできる国にしようとしているわけですので、それが後世の人が良かったと評するかもしれないが、攻めてこない時には余計なことをしたという話に、たぶんなるのでしょう。

才能はあるのだけれども人徳はどうだろうかという評価になるのだろうか今思います。

時間でございますので、ここら辺で止めさせていただきます。ありがとうございます。